

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-4	自動運転とシェアリングが融合した新しいモビリティサービスと社会・都市・生活の未来についての研究開発	熊本大学 教授 溝上 章志	B

<研究の概要>

「自動運転」と「シェアリング」は Society5.0 を支える主要技術であり、両者が統合した自動運転シェアリング (AVS: Autonomous Vehicle Sharing) は究極のモビリティサービスを提供するであろう。本研究開発では、AVS サービスに対する市民の要望や社会的受容性、既存公共交通事業との関係、駐車場需要や都市構造・社会生活への影響など、AVS サービスが実装された後の総合的モビリティサービスのあり方と社会・都市・生活の変化・変容について、技術的・社会的側面から検討を行う。

<中間評価結果>

- 昨年度の以下の指摘が改善されていない。
  - ① 自動運転とシェアリングの統合について明示的に取り扱うこと。
  - ② 社会・都市生活の変化、変容について検討すること。
- 最終年度はかなり盛りだくさんの感があり、コロナ渦で計画通り進まないことも予想される。研究期間終了後にも実証的な試行錯誤が確実に継続できる枠組を構築出来ると良いと期待する。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

- ・ 自動運転とシェアリングの統合という当初の目論見には到達できそうもない。ただ、各々については深い研究がなされる。
- ・ 当初の研究開発目的（ライドシェアと自動運転の統合、都市生活行動の変容の展望）の実現可能性がやや見えにくくなった。最終年度の成果取りまとめの方向性を見直しが必要のようにも思われる。
- ・ 自動運転とシェアリングの統合という点についてはいろいろと難しい面があると思われる。結果的に研究をやった中でできなかったということはあることなので、「融合した」ということになぜできないかとか、あるいはこういうところを解消しないと難しいよとかということはまとめて頂きたい。
- ・ 4. (2)の方法論は(1)cと関係しているが、それらの関係が不明確である。(2)のモデルを用いた(1)cの実証実験へのフィードバックについて考えるとよいのではないか。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第45回新道路技術会議において審議したものである。